

- みどりの食料システム戦略を起点とした、産地からの挑戦

地域と共に創る 持続可能な農業

～カーボンクレジットによる新たな価値創造～

Presenter

有限会社かさい農産 代表取締役会長

葛西 信昭

2050年へのロードマップと農業の転換点



化学肥料使用量

30% 低減

環境負荷低減に向けた効率化



有機農業の取組面積

25% 拡大

100万haへの挑戦



農林水産業のCO2

ZERO 排出

実質ゼロエミッション化

“

「企業は社会にその存在を許されているに過ぎない」

—— ピーター・ドラッカー



農業の衰退は、我々の在り方が社会のニーズから離れてしまった結果ではないか？



CONCLUSION

社会課題を解決する
農業への転換

なぜ今、カーボンクレジットに取り組むのか

STEP 01

JAS有機認証の「その先」へ

認証取得はゴールではありません。
受動的な基準クリアから、より能動的に環境へ貢献する農業への進化が必要です。

STEP 02

価値の再定義

従来の「安全で美味しい」という価値に加え、
「地球温暖化対策に貢献する」という、
科学的根拠に基づいた新しい価値を農産物に付与します。

そのための具体的手段

宙炭

(そらたん)

名古屋大学発ベンチャー
TOWING社が開発

- ✓ 植物が吸収したCO₂を半永久的に土壌へ貯留
- ✓ わずか1ヶ月で良質な土壌環境を形成

i 技術詳細は後半パートにて解説

5つの視点で創る「幸せな循環」



地域資源循環とこれからの農業

地域での実装展開：岩手モデル



地域の資源を地域で回し、地球環境にも貢献する。
岩手の地から、世界に通じる持続可能な農業モデルを実践してまいります。

“カーボンクレジットは、
社会に必要とされる農業を
作るための
強力な「ツール」



葛西 信昭
有限会社かさい農産 代表取締役会長

● Next Session

株式会社 TOWING 畑元遼

▶ 技術詳細・クレジット申請の仕組みについて



ご清聴ありがとうございました

Thank you for your attention